

平成 18 年度短期海外研修を終えて

東京大学医学部附属病院 放射線部
後藤政実

2006 年 8 月 28 日から 9 月 1 日にわたり参加させていただいた、スタンフォード大学での研修について、与えられた 4 つのテーマ(1500 字以内)に則して報告を致します。

1) 期待していたこととその結果

スタンフォードの研修と聞いてまず浮かんだキーワードは『イメージラボ』でした。当院においてもイメージラボが運営されていますが、その先駆けとなったスタンフォードを見ることにより、吸収できるものがあるのではないかと期待しました。イメージラボの研修は、ラボにおける講義を含め 1 時間の予定でしたが、参加者からのリクエストに答えていただき 1 時間の研修が追加されました。この研修で、さすが!と感じた点は、画像処理した症例が全て電子リスト化されている点と 1 症例の処理を行うことにより 200 ドルの収入を得られるシステムになっている点でした。

次に浮かんだキーワードは『3T の MRI』でした。1.5T の MRI と異なる点が多いため、撮像条件、アーチファクトの回避方法やコントラストの調整方法など、学ばなければならぬことがあります。しかし、この期待に関した答えは余りありませんでした。ところが、違った面の情報をかなり頂くことができました。fMRI、高空間分解能の DWI、MRS において、1.5T では得られない情報が 3T では取得可能となる情報です。特に fMRI において、3T で検出される部位が 1.5T では検出されない。つまり、実際には関係している部位が、刺激とは関係ない部位と判断される危険が大きいという点は、臨床において注意を非常に払う必要がある点でした。

そのほかにも、5 日間の講義とワークショップを通じて、ここでは書ききれない多くの情報を得ることができ、研修への期待値をはるかに上回る結果が得られたと感じています。

2) 得られた成果とそれをどう生かすか

得られた成果は、多くの情報を得られたことに加え、スタンフォード大学のスタッフや一緒に研修に参加した先生方と交流をもち、私のモチベーションを高めることができた点と考えます。この成果を基に、より良い画像の提供、より必要とされる研究成果を目指したいと思います。

3) 最も印象に残ったこと

若くして Chairman となった Gary Glazer 教授が持っていた強いオーラと Michael Moseley 教授がすごく明るく研修を運営していただいたことです。

4) 今後の海外研修に期待すること

このような研修を継続していただくことを期待します。

最後に、1 週間の研修を許していただいた東京大学医学部附属病院放射線部美馬技師長を始めとする放射線部技師諸兄、この研修会を実現するために尽力いただいた多くの先生方に感謝致します。また、日本食まで用意していただいた GEYMS スタッフの方々にお礼申し上げます。



病院玄関の写真:心癒されます